【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成31年3月22日(2019.3.22)

【公表番号】特表2016-501225(P2016-501225A)
【公表日】平成28年1月18日(2016.1.18)
【年通号数】公開・登録公報2016-004
【出願番号】特願2015-545197(P2015-545197)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/35　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/07　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/203　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/23　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/232　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　31/22　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/28　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/12　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　27/02　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/14　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　25/16　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/18　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　31/22　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/35
Ａ６１Ｋ　31/07
Ａ６１Ｋ　31/203
Ａ６１Ｋ　31/23
Ａ６１Ｋ　31/232
Ａ６１Ｋ　31/22
Ａ６１Ｐ　25/28
Ａ６１Ｐ　35/00
Ａ６１Ｐ　31/12
Ａ６１Ｐ　27/02
Ａ６１Ｐ　25/14
Ａ６１Ｐ　25/16
Ａ６１Ｐ　31/18
Ａ６１Ｐ　31/22
Ａ６１Ｐ　43/00　１２１

【誤訳訂正書】
【提出日】平成31年2月7日(2019.2.7)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】

有効量のブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）および有効量のレチノイドを含む、αセクレターゼによるプロセシングの増強が有益である１つ以上の疾患の治療のための、または、αセクレターゼ活性の上昇に応答性の疾患の治療のための製剤であって、
前記ブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）およびレチノイドが、１～１０００ナノメートルの直径を有しかつバイオポリマーを含む複数の微粒子に保持され、
前記ブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）が、ブリオスタチン１～２０からなる群に第１のブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）、第２のブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）および第３のブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）を含む群から選択され、
前記バイオポリマーが、ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド－コグリコシド）である、
前記製剤。
【請求項２】
前記レチノイドが、レチノイン酸、レチノール、酢酸レチノール、パルミチン酸レチノール、１３－シス－レチノイン酸およびベキサロテンからなる群から選択される、請求項１に記載の製剤。
【請求項３】
前記レチノイドが、αセクレターゼの発現を増加させる量で存在する、請求項１または２に記載の製剤。
【請求項４】
前記ブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）が、αセクレターゼの産生を刺激する量で存在する、請求項１から３のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項５】
前記ブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）が、１週間当たり１平方メートルの表面積当たり０．１～５０マイクログラムの投与量で存在する、請求項１から４のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項６】
前記ブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）が、１週間当たり１平方メートルの表面積当たり５～１０マイクログラムの投与量で存在する、請求項５に記載の製剤。
【請求項７】
前記レチノイドが、１日当たり１．０～２４０ｍｇの投与量で存在する、請求項１から６のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項８】
前記レチノイドが、レチノイン酸である、請求項１から７のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項９】
前記バイオポリマーが、耐酸性である、請求項１から８のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項１０】
前記ポリ（Ｄ，Ｌ－ラクチド－コグリコシド）が、２５～７５％がラクチドであり、残りがグリコシドである、ラクチドとグリコシドの比率を有する、請求項１から９のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項１１】
前記微粒子が、水溶液中で再構成するために凍結乾燥される、請求項１から１０のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項１２】
前記微粒子が、経口投与のために懸濁液中に保持される、請求項１から１０のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項１３】
前記微粒子が、錠剤、カプセル剤、ゲルキャップ、および散剤からなる群から選択される経口剤形中に保持される、請求項１から１０のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項１４】
αセクレターゼによるプロセシングの増強が有益である１つ以上の疾患、または、αセ

クレターゼ活性の上昇に応答性の疾患が、神経変性疾患、癌、ウイルス潜伏感染、および眼性疾患からなる群から選択される、請求項１から１３のいずれか１項に記載の製剤。
【請求項１５】
前記神経変性疾患が、アルツハイマー病、ハッチンソン病、パーキンソン病、クールー病、クロイツフェルト・ヤコブ病、ダウン症候群、および海綿状脳症からなる群から選択される、請求項１４に記載の製剤。
【請求項１６】
前記癌が、前立腺癌、黒色腫、リンパ腫、腎臓癌、および食道癌からなる群から選択される、請求項１４に記載の製剤。
【請求項１７】
前記ウイルス潜伏感染が、ＨＩＶまたはヘルペスに関連する疾患である、請求項１４に記載の製剤。
【請求項１８】
前記有効量のブリオイド（Ｂｒｙｏｉｄ）が、１日当たり体重１キログラム当たり３～１０ｕｇの投与量で存在する、請求項１から１７のいずれか１項に記載の製剤。